



2013. 12

No.13

認定 NPO 法人 C.P.I 教育文化交流推進委員会

発行所：C.P.I.スリランカ事務所

Mahindarama Road, Etul-Kotte, Kotte, Sri Lanka

日本本部：東京都三鷹市中原 2-16-9 Tel; 0422-49-3808

E-mail: cpimate@gmail.com

URL: http://www.cpi-mate.gr.jp

ホームページ <http://www.cpi-mate.gr.jp> URL English <http://cpimate.com>

C.P.I.からの教育支援 25 年に感謝いたします

スリランカ教育里子会の会長から挨拶

D.W.NILUPA DHANANJAYA DE SILVA

私は、C.P.I.の教育里親さんから奨学金を戴いて、1998 年に AL 試験に合格しました。

そのあと、大学には行かずに働こうと思っていたときに SNECC から日本での演劇キャラバンに参加しないかと声がかかり、音響機器の担当をしながら、演劇をすることになりました。

何か月も慣れない日本語でのセリフを覚え、日本の生活習慣について迷惑をかけないように勉強して、1999 年に40日間に渡り九州から北海道までバスの旅をしたことは、一生忘れることができません。

そのキャラバンの間に、九州・広島・京都・奈良・静岡・浜松・千葉・神奈川・北海道の C.P.I.会員のみなさまや多くの学校の方々にお世話になりました。私たちも、スリランカ料理を作って食べて戴いたりしたことを覚えています。演劇やダンスも好評でした。

スリランカに戻ってから、働きながら SNECC の日曜学校の教師をボランティアすることになり、それ以来もう14年もの間、そのような社会活動をし続けております。そのおかげでよい結婚もでき、いまのコンピューター組立会社で、マネージャーの仕事に就くこともできたと、感謝しております。



右端、ニルーパさん。生徒たちと歓談。

日本の若い方々と、もっと明るく、安全な社会をつくる活動を、していきたいと望んでいます。

数年前から、C.P.I.の小西会長の提案で、卒業生会の活動を広げています。ひとつは、スリランカ人として教育里親になり、後輩を支援することです。

もうひとつは、デング感染症の媒体である蚊の撲滅キャンペーンのような活動をはじめたことです。これは、なかなか楽しく、意義もあるもので、いろいろアイデアを出して進めています。今後、ぜひ日本の若い人たちにも参加して戴ければと、強く望んでおります。

25 年間のご支援に、重ねて感謝を申し上げます。



教育里子会の呼びかけに応えたい方をインターンとして募集します（25 歳までの方）
2014 年以降、スリランカでの新しい旅を、若者向けに提案していこうとしています。C.P.I.が築いてきた教育里子の卒業者たちと一緒に、ワークキャンプのプログラムを実行するスタッフを、インターンとして募集します。スリランカでは、子どもたちとの紙芝居交流、感染症撲滅キャラバンなど、過去に様々な実施しておりますので、実行しやすく、楽しく実のある活動ができます。ご応募ください。

1989 年から続けてきた、スリランカ里子交流ツアー

2013 年交流団長 C.P.I.理事 牟田慎一郎

25 年間続けてきた、本部主宰のスリランカ里子交流ツアー。今年も、8 月 19 日～8 月 26 日まで、参加者が 7 名と少なかったが、充実した 8 日間を過ごすことができた。

従来は香港経由が多かったが、今回は初めて、韓国のソウル（仁川 Incheon）経由とした。東京からの 5 名と福岡からの 2 名がソウルで落ち合って大韓航空でスリランカへ行くことになった。夕方 5 時ころの出発だったので、昼食後ゆったりと空港へ行くことができた。

20 日の朝 4 時ころコロンボに到着し、若いガイドの Jayan さんの出迎えを受け、ちょっと休憩して、6 時少し前に Ashoka さんの運転で、空港を出発しキャンディへ向かった。途中、森下さんの里子 Sasith Indrajewa さんの家を訪問し歓迎を受けた。彼は、車の整備士を目指して勉強中だとのことだった。

途中、ピンナワラで象の水浴びと孤児院を見学した。入口がきれいになっていた分、入園料も 2000Rp（約 1500 円）と昨年より 500Rp 値上がりしていた。

キャンディに着き、ホテル（Hilltop）でしばらく休憩し今回の最大の目玉「キャンディペラヘラ祭り」を鑑賞しにいった。このお祭りは、毎年 7～8 月の満月の日まで一週間繰り広げられるスリランカ最大のお祭りである。イルミネーションで着飾った 100 頭以上の象と前後に大勢の人々が踊りやパフォーマンスをしながら街中を行進する。

椅子に腰掛けて見るため、SNECC に座席の予約をして戴いた。大勢の見物客が道にあふれるので、早めにホテルを出て、5 時半には席についた。行列が前を通り始めたのは 9 時、なんと 3 時間半も待ったことになる。帰途についたのは深夜 12 時。ホテルに着いたらひとりいないハプニングがあったが、すぐにタクシーで戻って来られたので、みんなホッとした。

翌日は、仏齒寺を見学後、途中紅茶工場を見学し、ヌワラエリヤの英国調の築 150 年の由緒あるセントアンドリュースホテルへ到着。この日はホテルで休息日を満喫した。

翌 22 日朝、森下夫妻は歴代の里子訪問をするのでひとまずお別れし、ヌワラエリヤ近郊を見物後ダンブッラへ移動。夕刻に、シギリヤロックを観光し、1500 年経っても色鮮やかなフレスコ画「シギリヤレディ」にあらためて感動した。



中央はドライバーの Jayan さん

宿泊は、湖のそばに佇むコテージ式のアマレイクホテルで、朝の湖畔の散歩は、すがすがしく気持ちよかった。

23日は、王国第2の首都ポロンナルワを観光。古代都市の遺跡がたくさん残っていて、当時を偲ぶことができた。とても暑く、日射を防ぐのに苦労する。



その後、希望者でアーユルヴェーダを体験。アーユルヴェーダは、5千年の歴史を持つインド大陸の伝統的医学で、多数のハーブオイルを使ったトリートメントで、心身ともにリフレッシュできたようだ。夕刻より、ミネリア国立公園でサファリを体験。野生の象や、たくさんの野鳥を観察することができた。



翌24日は、ダンブッラ石窟寺院を観光後、コロンボへ移動し、ホテル（Taj Samudra）にチェックイン。森下夫妻とも合流し、SNECCのコッテセンターで、研修中の青年達と来日予定の里子代表団の踊りなどで歓迎を受け、夕食をともにした。

最終日の25日は、SNECCのコッテセンターで、待望の里子との面会。お互いにちょっと緊張



した面持ちで対面し、SNECCで用意して戴いた通訳をはさんで、お互いの近況報告などを行いながら交流をした。



スリランカのセンターでは、里子たちとの交歓会を楽しめます



前記の 2013 年里親交流団の旅行記にあります、8 月 25 日の日本まつりでの交歓会の様子です

私たちの、スリランカと係る意思が、現地施設に刻まれています



C.P.I.とスリランカ協力団体 SNECC が協働して建てた
現地本部の入り口には、左側に「この施設は SNECC と
C.P.I.の共同施設である」とのボードが掲げられており、
右側には、写真にあるようなボードが掲げられています。

ここに言う「友情」とは、安易な友だち関係を指すもの
ではありません。

無償で支援を行う活動は、受益者である子どもたちを守る
ことも必要で、ときには、険しい山の峰を歩くような緊張
を伴います。ですから、C.P.I.と SNECC は、相手の困難
を知ったときは、相手の身になって行動することが大事で
す。そこには、ほんとうの友情が芽生えろと信じています。
この建物は、そのような友情に根ざして建てられました。



25 年間の会員の皆様のご努力とご支援ありがとうございます。
新たな出発のためにも、これまで積み重ねた経験は大事だと思います。

それでは、1991 年に入会された会員さんの、これまで支援したすべての教育里子への訪問記とともに、25 年間の C.P.I.の活動を振りかえってみましょう。

特別寄稿: 里子の8家庭を訪問する(2013 年 8 月 19 日～26 日) 森下正信さま 薫さま

1990 年 5 月 5 日の朝日新聞に載った小西会長の写真入りのCPIの教育里子の記事を読んで、入会した私(正信)ですが、2004 年ごろに東京西部地域会の里親たちがスリランカ訪問をしたときに、初めてスリランカを訪れて、今回、6 回目でした。

家内・薫は 2011 年にCPIに入会し、里子を持ちました。スリランカ行きは 3 回目になります。

訪問した順番ではなく、私たちの里子になった順番に、現在の里子たちの様子をお話します。

最初の里子(男・Sudath Nandalochana・デヤニヤガラ在住)は、1991 年に教育里子となりました。いま34歳になっていて、7歳(男)と2歳(女)の2人の子供がいます。近くの水力発電所で、電力線のメンテナンスを担当しているそうで、家族は76歳になる母親(元気で、地域の若い人たちにいろいろ教えている)を含め5人家族でした。長男は勉強が好きだそうで、人体の模型が組み込まれた英語の本を見せてくれて、将来は医者になりたいと張り切っていました。



二番目の里子(男・Sampath Nisha・コッテ在住)は 1997 年に里子になり、30歳になっているが、まだ独身でした。衣料関係の会社に勤めていて、マネジャーになっているそうです。ちょうど前日に大学でマネジメントの資格を取る試験を受けたそうで、頑張っています。両親と弟(学生)の4人家族で、念願の自動車(日産)を買った、と嬉しそうでした。

1989 年に、日本初の教育里親募集を日本経済新聞紙上で行い、4 月には同紙上で里子訪問記が掲載されて、「一人がひとりを大切にする国際協力」という形で脚光を浴びた。

翌年 1990 年に朝日新聞に載ったことで、会員が一気に 2500 名となり、1993 年には念願だったスリランカの現地本部施設を、日本国外務省 NGO 無償支援を得て竣工させた。

1994 年に多目的ホールも建て、日曜学校などでスリランカの施設が活気づいた。

1995 年に毎日新聞「この人」欄に、活動を当初から率いてきた小西会長の理念が掲載された。



1994 年の
奨学学生認証式

教育里子を大切に想う気持ちが伝われば、日本の里親さんを、人々を、大切にする人が育つ



2004 年の 12 月にスマトラ沖地震による津波がスリランカを襲い、C.P.I.は、教育里子の被災家庭のみを救援することを決めた。

全壊した4軒の家を建て、



半壊の家庭には、失った生計設備を供与し、



試験のノートを無くした奨学生には、無事だった他の生徒のノートをコピーして渡すなど、きめ細かい救援を行った。

地域の会員は、そうした活動を人々に知らせて下さった。



五番目の里子(男・Sasith Indrajeeva・ガンパハ在住)現在23歳で、2008年に就職しましたが職を変え、いまは自動車整備の見習い仕事をしています。弟が2人いて、両親、それに親戚の人や近所の人たちも大勢、私たちのグループを歓待してくれました。



三番目の里子(女・Dilani Madurangani・コッテ在住)は2002年の里子。現在28歳で、里子の中で、唯一大学(コロンボ大学)を出ています。一度会社勤め(経理)をしていましたが、最近国の教育機関の先生に合格したそうで、会計とビジネスの指導をすることになったそうです。今年12月に結婚するので、近くに新居を建てていて、見せてもらった。休日だったので、父親と弟2人(23歳と19歳)が手伝いに来ていました。来年には新居に来てほしいと言われ、感激しました。



四番目の里子(女・Niroshani Perera・コッテ在住)は24歳で大学1年に入りなおして勉強しているそうです。この里子は2004年のスマトラ沖地震による津波のときに、連絡が取れなくなって、私たちの支援ができなくなったのですが、今回の私たちの希望を叶えるためSNECCの人たちが直接訪ねて行って探していただき、居所が分かって、逢うことができました。



2010年に、SNECCおよび千葉の社会福祉法人「ふるさと学舎」との共催で、シンポジウム『これからの助け合い社会を考える』を開催した。



六番目の里子(男・Lalith Kumara・タワラケレ在住)は22歳で、2011年に高校を卒業しました。現在外資系の衛星通信の会社の研修を受けていて、終われば、その会社に勤めるそうです。



2012年に開始した、旧・内戦地域で困っているタミール族の子どもたちへの教育支援を進め、この笑顔を守らなければならない。



シンハラ族とタミール族のこれからの融和を考えると、ふたつの言葉をつなぐ通訳を養成する学校が必要である。ほかにもすることが多い。そのための活動に資金を用意したい。協賛を募りたいと思います。



以上が里子たちのようすです。駆け足で行ってきましたが、里子たちの家は、地方に行くと狭い道ばかりで、山の中にも蛭に気をつけながら入って行かねばならず、ずいぶん時間をかけた訪問でした。そのような地域の里子の家庭は、本当に貧しい境遇の人たちでした。

私も小学校時代は、疎開していて貧しくて、6年生までは裸足で走り回っていたことを思い出しています。スリランカは、これからの国だと思います。

里子たちも頑張っしてほしいと、改めて思いを強くしました。



2011年に旧・内戦地域を徹底調査。
ジャフナに飛ぶには空軍の輸送機であった。

七番目の里子(16歳・男・Dilshan De Silva・コッテ在住)と八番目の里子(15歳・男・Lahiru Madushanka・ワララウィッタ在住)は現在支援をしている子どもたちです。

Dilshanは中学3年で学校のクラブで野球をやっていて、エースで4番だそうです。できればスリランカの代表チームに加わって日本にも行きたいと言っていました。スリランカ代表チームの指導者には日本人が3人いるそうです。日本に来て応援できれば、凄いことになりそうで楽しみ。

Lahiruは4年前に父親を亡くし、母と姉の3人、姉は今年大学入試、本人の中学卒業試験と重なっているそうです。本人は成績が良いそうで、将来はドクターになりたいと言っていました。

私たちのために準備してくれたのか、里子の小さいときの写真と父親の写真、両親が結婚したときの写真を部屋に立てかけて見せてくれました。

活動年代記に併せて里子の成長をみることができました。森下様ご夫妻とSNECCの職員の皆様に感謝を申し上げます。